

資料1 湯川地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3グループ】

第4回地区協議会資料
（平成29年2月17日）

分類	細分	H27. 5. 28地区協議会（第1回）	H27. 10. 22地区協議会（第2回）	H28. 6. 16地区協議会（第3回）	考えられる対応策	
堤防整備 （津波）			<ul style="list-style-type: none"> ・ [現況高] 観光地であるため景観は重要 ・ [L1堤防高] レベル1に対応出来る7.5mが必要 ・ [L2堤防高] 堤防を作っても完全にふさぐ事ができなければ意味がない ・ [景観を考えた高さ] 湯川海岸は現況、又は+1mぐらい ・ [判断できない] 造ったときの影響（観光）がわからないと何ともいえない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>防潮堤のかさ上げはしないで、避難路整備やソフト対策の充実などで対応する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）は当面実施しないこととします。 ・ 海岸護岸のかさ上げをしないことから、河川（二級河川伊東大川・北川）の対策もしないこととします。 	
崖崩れ		<ul style="list-style-type: none"> ・ ガケ崩れ 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・ 土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備 	
避難路 （避難経路の安全性）	避難路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所までの道が確保されているか ・ すぐ近くに、高い建物・高台に行けるルートはあるか？ ・ 避難場所までの移動ができるか ・ 家の周りの方々が、正しい避難方法で避難できるのか ・ 避難場所は家族で決めてあるが、そこまで行けるかが心配 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期 ・ 標識の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波避難方向の路面表示等の充実 ・ 松原ガードへの誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。 ・ H28.3に配布した、津波ハザードマップをつかい、避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。 ・ 津波避難計画に基づき、より効率的な避難ができるよう、平成27年度に実施した、津波避難方向の路面表示等を、今後も充実させていきます → <u>津波避難方向の路面表示等の充実（S-2）</u> ・ 津波避難訓練への積極的な参加
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難する道路を通れるか ・ 倒壊建物が道路をふさいで、避難が難しい ・ 道路は、倒壊で通ることが出来るのかな ・ 隣に古い木造家屋が多いので、倒壊して避難路がないのが心配 ・ 道幅がせまく、避難中に建物が壊れ、下敷きになる恐れ ・ 避難通路は確保できるか・避難経路の消滅 ・ 山崩れなどで、道路は寸断されていないか ・ 避難中の地震 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難路の交通事情（放置or通行の車） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 湯の花通りは通らない（狭い、低い） ・ 湯の花通り 道幅がせまい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。 ・ 市が行う無料耐震診断、耐震補強費用補助制度の利用促進 ・ 松月院ガードの拡幅は困難です。徒歩で避難してください。 ・ 避難路の選択については、最終的には自己判断
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅裏に行くのに、ガードは心配 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難路ではガードの崩壊が心配 ・ ガードが一番低い。逃げ道にならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水区域外となる線路より山側に避難するためには、ガードや踏切を避難路とせざるを得ません。 ・ JRとしてはガードの耐震性について、過去の災害実績やガードの構造から、倒壊の恐れはないと判断している。 	
	JR 伊東線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊東公園方面に逃げる際に、ホームをスムーズに横断できるか心配 ・ 駅のホームを越えるのがたいへん 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線路を越える場所が少ない ・ 駅のホームを越えて逃げる ・ 湯川地区は避難場所が北中、伊東公園なのでJR伊東駅の駅構内の線路を避難ルートとして許可を取れるようにしてほしい ・ 線路の上への避難となる為ふみ切りなどの整備 ・ 伊東駅から伊東公園までの歩道橋 		<ul style="list-style-type: none"> ・ JR伊東線横断が課題 ・ 駅構内を通れるようにする ・ 松月院ガードが通れない時は、伊東駅を越えて伊東公園に行くことを考える ・ 駅のホームを横切るのは大変。ホームの北側の線路を横切りたい ・ JRフェンスをとる →線路をわたれるように ・ 松原ガードが通れない時は、伊東駅の線路を通ることを考える ・ 伊東線線路沿いのフェンスが自動的に下がるように（地震時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRから、津波避難の際の線路横断を容認することは難しいとの見解が示されております。
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊東駅の高架化 ・ 伊東駅に駅ビル（JRに依頼） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用の面から困難と思われる。 	

分類	細分	H27. 5. 28地区協議会（第1回）	H27. 10. 22地区協議会（第2回）	H28. 6. 16地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難場所 (収容・鍵)	避難場所	・ 駅の方へすぐ逃げる	・ 住民の避難する気持ちが大切	・ 伊東駅が一番高い ・ 湯川保育園を避難所にする ・ 伊東公園の許容量が心配	・ 伊東駅・湯川保育園は津波浸水区域内のため、津波避難のための避難所には適していません。 ・ 伊東公園が避難者であつた場合は、さらに海拔の高い方向に避難してください。
	避難ビル	・ 地震が7分～5分 自宅から1番近いパークロカンダへ行く事しかない		短期 ・ 避難ビルを増やす ・ 避難ビルになるものがない ・ 避難ビルの配置（海沿いが多い） いざという時に、海に向かって逃げる人はいない ・ 上條ビルやパチンコアシベを避難ビルに	・ 津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難協力ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 ・ 津波避難困難地域が解消されるよう、津波避難協力ビルの指定数増加を図っていきます。 → <u>津波避難協力ビルの指定数増加（S-4-1）</u>
		・ 津波避難ビル（パークロカンダ）の耐震性が心配			・ 津波避難協力ビルは耐震診断した結果、安全な建物について指定しています。
		・ 避難ビルの各階の海拔表示がなく、何階までのぼればいいのか判らない			・ 津波避難協力ビルに避難した場合は、できるだけ、上層階まで避難してください。
		・ 避難場所が倒壊する恐れがある ・ 避難所は安全か			・ 避難所（区民会館）の耐震診断等についても、耐震診断について一部補助制度が利用できる。
		・ 津波避難ビルの外階段の入口に鍵がかかっており、入れないという話がある			・ 避難協力ビルのセンチュリー21については外階段の入口階段の鍵が構造上外からは開けられなくなっておりますが、津波避難が必要になった際には、ビル管理人がいち早く開錠してくれることを確認しております。
		・ 避難ビルの非常階段のカギが自動的に開く設備を市で設置して欲しい ・ 避難ビルは入りにくい		・ 夜間などに、避難協力ビルに避難する際に入口の開錠が必要となるビルについては、「地震開錠キーボックス」を、建物の所有者等の理解が得られれば、設置していきます。 → <u>「地震開錠キーボックス」の設置（S-4-2）</u>	
			・ 避難ビルが解体予定あり ・ 避難ビルが無くなった	・ 避難協力ビルの喜楽荘は、現在休館中となっておりますが、今後の見通しが立っていないことを所有者である横浜市交通局に確認しました。	
避難タワー		・ 海岸付近に避難タワーが必要 ・ タワー理想は湯川区民会館（ここ）	・ 伊東駅横市営駐車場に避難タワー設置 ・ 駐車場になっている場所に避難タワー ・ 避難路途中に避難タワー ・ 避難タワー 駅南駐車場 立体駐車場にする ・ 住宅の密集地に避難タワーを作った方がよい ・ 避難タワーを各町内1箇所ほしい ・ 避難タワーの下にシェルター（波が引くまで避難できる） ・ 伊東幼稚園湯川分園のところに避難タワー	・ 津波避難計画策定により、津波避難困難地域が判明したため、避難タワーの規模、建設箇所、必要性等について、今後検討してまいります。 → <u>規模、建設箇所、必要性等について検討（S-5）</u>	
避難にかかる時間	・ 3～4分で避難できるか ・ 高台（高い建物）までの所要時間 津波到達まで間に合うか ・ 夜発生した場合に、スムーズに（短時間に）避難できるか心配			・ 伊東幼稚園湯川分園のところに避難タワー ・ 松月院ガードまでで5分位かかる。	・ 津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 ・ 懐中電灯・ヘッドライトの備蓄
避難の方法	・ 避難の仕方 車・徒歩 決めておいた方がよい？				・ 徒歩で避難してください。
災害弱者	・ 年寄がいる場合、短時間（5分以内）で避難できない？ ・ 老人がいるので、避難が遅れるのが心配です ・ 避難場所まで歩行できない ・ 時間内に避難できるのか ・ 我家はともかく、近所に住む高齢者が心配 ・ 老人をかかえて、すぐ避難できるか			・ 高齢者を誰がカバーするか課題 ・ 避難ビルの階段が狭い 高齢者はつらい	・ 家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 ・ 発災直後は、自助、共助が必要となります。 ・ 避難行動要支援者の対策については、共助によることとなりますが、まずは、自助（自分の命を守る）が優先されます。

分類	細分	H27. 5. 28地区協議会（第1回）	H27. 10. 22地区協議会（第2回）	H28. 6. 16地区協議会（第3回）	考えられる対応策
自宅・家族・自助 (家族・近所の人 の安否・救助)	<ul style="list-style-type: none"> ・主人と一緒に速やかに避難する ・我が家は木造なので家が心配だが、まず自助を心掛ける事 ・笛・ライト等の携帯 ・家族の安否（外へ出ている） ・家族・親族・近所の方 ・地震により崩れた家の住民の人の救助？ 				<ul style="list-style-type: none"> ・発災直後は、自助、共助が必要となります。 ・安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。
自宅の心配	<ul style="list-style-type: none"> ・家の出入口が開くか？ ・自宅家屋の倒壊 ・自宅は津波の心配はないが、家の倒壊はしないか 				<ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい（TOUKAI-0による支援）。
情報 (ライフライン・情報)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに行けば、安全なのかな ・津波の情報がほしい・情報が入るか ・情報をまず知る ・震源場所・地震・津波の大きさ ・電話が通じるか 				<ul style="list-style-type: none"> ・H28. 3に、津波ハザードマップ（防災ガイドブック）を配布済です。 ・同報無線放送やラジオにより情報を入手してください。 ・情報を入手するまでには時間がかかるので、強い揺れや長い揺れを感じた場合は、すぐに避難してください。 ・数時間から数日は、つながりにくい状態が続くことが予想されます。
火災	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防対策 ・ガス・電気→火災 				<ul style="list-style-type: none"> ・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・地震後の食料などの確保は出来るのか？ 				<ul style="list-style-type: none"> ・発災直後は物資の援助は期待できません。各自での備蓄をお願いします。 ・自助、共助が必要となります。